



しりょうかんだより



No.11



郷土資料館では、3月19日(土)～3月31日(木)に春休みこども週間「きょうどしりょうかんであそぼう!」を開催します。 10時～16時、28日(月)お休み

こままわし・輪なげ・的あて・すごろく・フラフープ・福笑いなどみなさんのおじいさん、おばあさん、おとうさん、おかあさんが子どものころ遊んだあそびを体験したり、オリジナルくるくる動画をつくったりできます。

また、去年大人気の投扇興という扇子を的にむかってとばして点数を競う、古くからある遊びも体験することができます。

春休みには、ぜひ、お友だちをさそってきょうどしりょうかんにあそびにきてください。



昨年のように



とよたのれきし(近世2)

(江戸時代：1603年～1867年 寺部渡辺家)



渡辺半蔵守綱像
(県指定文化財)

江戸時代、寺部村はじめ周辺の村々(平井・市木・^{そぶかわ}渋川・^み森・御立・^{たち}牛野・^ご大見・^{やまむろ}山室・^{どあい}渡合・^い岩滝・^{やなみ}池田・^{てろ}矢並・^{おろ}手呂・^{しも}小呂・^{たきみ}下鷹見・^{かみたきみ}上鷹見・^{てらやげ}寺谷下・^{ならい}成合・^{ちどり}千鳥)は、渡辺家の領地でした。渡辺家の初代^{はんぞうもりつな}半蔵守綱は、徳川家康に仕えて多くの合戦で功績をあげた武将です。槍の名人で家康から「槍の半蔵」と呼ばれていました。

徳川家康が江戸幕府を開くと、守綱は尾張名古屋藩の家老に命じられ、この地域を領地としてもらいました。以後、明治まで渡辺家がこの地域のお殿様でした。寺部に陣屋(城)を置き、西町・本町・新町・田町などの町並みが整えられました。陣屋は矢作川の近

くにあり、すぐに船で川を下ることができました。現在は「寺部城址公園」となっています。陣屋の東にある守綱寺は、守綱の冥福を祈るために建てられたお寺です。本堂の裏には渡辺家の歴代のお墓が並んでいます。渡辺家には、9代綱光(歌人)、10代規綱(又日庵・茶人)など文化人としてもすぐれた人物がいたため、寺部周辺は、現在も文化活動の盛んな地域となっています。



渡辺家歴代墓所(市指定史跡・守綱寺内)

おかしのあそび —あごろく—

すごろくは、もともとは2人が盤の前に座って行う将棋や囲碁と同じような遊びでした。これを盤すごろくといいます。盤の上に白と黒の駒それぞれ15個を置いて、交替で筒に入れた2個のさいころをふりだし、出た目の数だけ駒をすすめ、勝負します。最も古い遊びのひとつで、インドにおこり、奈良時代に中国から日本に伝わって貴族のあいだでさかんにおこなわれました。賭け事としても人々の間に広まりましたが、江戸時代になると、幕府からの取り締まりや、他の賭け事の流行で、ほとんど廃れてしまいました。

一方、江戸時代に、かんたんにあそべるようにくふうした絵すごろくが考えられました。紙のますめごとに絵をかき、「ふりだし」と「あがり」の位置を決め、何人かで順番にさいころをふって出た目の数だけ駒をすすめ、はやく「あがり」についた人を勝ちとする遊びです。こどもの遊びとなったのは江戸時代以降のことで、人生やたびにちなんだ「出世すごろく」や「道中すごろく」ができました。その後、明治、大正、昭和時代は、その時々々の流行によって、探検すごろくや、キャラクターのすごろくなどいろいろなすごろくで遊ばれました。

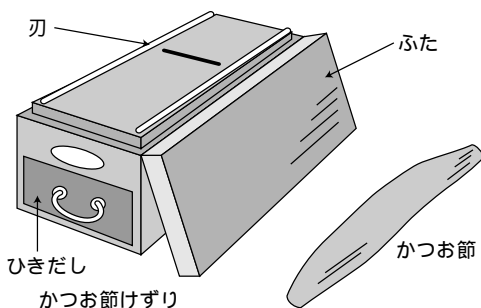
民 具

M I N G U

かつお節けずり

かつお節をけずるための道具です。かつお節は、かつおを煮て、薪でいぶしてかちかちに乾燥させたもので、今ではけずったものをパックして売られていることが多いです。昔は自分でけずって料理に使っていました。この「かつお節けずり」は、上に刃（カンナ）がついていて、かつお節をおしだすようにけずると、下のひきだしにけずったかつお節がたまるしかけになっています。つかいおわったら、ひきだしの中にかつお節をいれ、ふたをしてしまいます。

郷土資料館の民俗資料館に展示中ですのでみなさんぜひ見に来てください。



しりょうかんだより No.11

平成17年3月3日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。